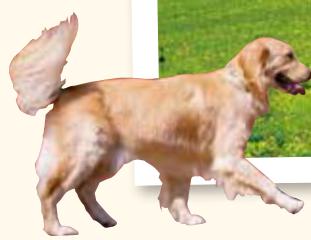




宝水ワイナリーを遠くに望む、岩見沢東部丘陵地帯。

原域岩見澤ポケットガイド  
(郷土かるた)

僕のパパさんは  
勉強熱心だワン！  
エッヘン！



一の澤水源池



(※1)  
原域  
岩見澤  
ポケット  
ガイド  
(郷土かるた)  
和田高明氏著

今回の原稿の元とさせていただいた文献です。

この郷土かるたは、作者の和田高明氏が様々な岩見沢にまつわる文献等資料を調べ、誰にでもわかりやすく、音順のかたの形式にしてエピソードを紹介したもの。北海道開拓の頃から現在に至るまで、様々な事象がまとめられています。現在は販売されていないため手に入れるのは難しいですが、岩見沢市立図書館などで見ることができます。私自身、1冊しか持っていないので、画像の通り見すぎてボロボロになっています。

岩見沢は飲料水にとても苦労した地でした。

明治17年、札幌県勧業課(現道庁)の派出所が4箇所の井戸を開設しました。常時使える湧水は無し。その解消のために、明治19年には市来知川をせき止め、素焼土管で元町まで水道を引いたものの、漏水を管理できず失敗に終わりました。これは近代水道では明治6年の横浜に次ぐものと言われています。

また、井戸を掘って湧水があつても金気が多く、幾番別川は洗炭により真つ黒。住民は良質な水を確保するこいで名付けられたらしいのですが、岩見沢では、泥炭地のため水が赤茶けていて「番茶の様な水が出る」という意味合いでつけられたと言われています。

そこで住民悲願の上水道整備が明治39年に着工へ41年10月竣工。この上水道は北海道では函館についてで2番目の早さ。全国でも13番目という驚異的な早さで整備されたのですが、その理由は先人が水に悩まされ続けたとい



僕のパパさんは  
勉強熱心だワン！  
エッヘン！



宝水ワイナリーを遠くに望む、岩見沢東部丘陵地帯。



僕のパパさんは  
勉強熱心だワン！  
エッヘン！



僕のパパさんは  
勉強熱心だワン！  
エッヘン！



僕のパパさんは  
勉強熱心だワン！  
エッヘン！

